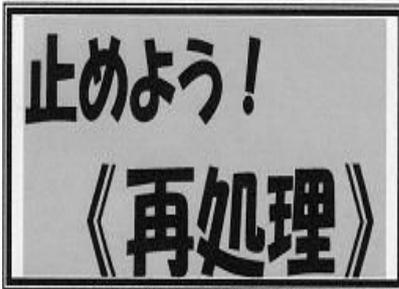


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会** (略称) 三陸の海・岩手の会
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理 / 岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocon.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
2023(令和 5年)
1月27日
第242号
編集事務局 S. Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

岸田内閣 原発最大活用 政策へ転換! 浪費と危険増大の 原発新設・老朽原発の再々利用

臨時国会閉幕を待っていたかのように岸田内閣による異例の**国政の基本方針転換**のニュースが相次いで報ぜられています。それは、一月八日の「防衛予算をGDPの二%を目指し、毎年度約四兆円の追加としたい」との発言や、九日の自民党部会、安保関連文書案に「日本も敵基地攻撃能力(反撃能力)を持つべきだ」と明記する指示をしたことです。そして、極めつけは同月二二日に公表された、「グリーン・トランスフォーメーション(GX)」実行会議(議長岸田文雄首相)の基本方針案の政府了承です。これは原発の新規建設や再稼働、老朽原発の寿命延長、再処理の加速化に言及し、これまでの**国の原子力政策を根本から方針転換させるもの**です。福島第一原発事故の原因究明もままならず、多くの被災者を取り残したまま、あたかも事故がなかったかのような一方的な方針転換を許すわけにはいきません。



朝日新聞
2022.12.23

緑化社会づくり「GX」のこと 原発新設・再稼働は真逆 原発事故を忘れたのか

温暖化を防止し地球の緑の環境を保全することと原発推進は真逆です。実行会議はどのような議論を行って原発の新増設や老朽原発の利用延長を決めたのでしょうか？
今月、宮古・盛岡で開催された講演会で木幡ますみ大熊町議は原発事故の悲惨さを切々と語りました。国民の声を無視して、無謀な「原発立国の方針復活」は許されません。

原発ゼロは進んでいる

3・11原発事故後、政府与野党が何回も協議を重ね二〇二二年に**合意に達したのは「原発の運転期間は四〇年。例外的に二〇年延長とする」との原子炉等規制法の改正(第四三条)**と「**規制と利用の分離**」による「原子力規制委

原発ゼロは安全への道

実際に日本では、二〇一二年五月から二〇一五年八月まで稼働**原発ゼロ**の時期があり、その後も現在まで三、四基の稼働があるのみです。しかも、この十年間真夏にも真冬にも電力不足は起こりませんでした。むしろ日本沿岸の原発温排水によ

GX実行会議への首相指示

海水の温度上昇が止まり沿岸海洋生物が復活し始めました。

昨年八月

「GX実行会議」の制定でした。当時の民主党政権は討論型世論調査を行って「原発を新増設せず二〇三〇年代のゼロをめざす」とする国民の声を反映した政策を確立しました。この政策を引き継いだ自民党政権も「再生可能エネルギー」の拡大を図る中で、可能な限り原発依存度を低減する」とし、**原発新増設や六〇年超え老朽原発の稼働を主張することはありませんでした。**

原発新設は超巨額

「革新原子炉」などと言いますが、新しい方式の炉などありません。これまでの軽水炉にコアキャッチャーや

さらに厚い格納容器を付けるなどで強化策を施すのみで巨費が費やされます。これまで日本では「原発一基約五〇〇〇億円」と言われて来ましたが英国では二兆円、米国では二兆二〇〇〇億円などの事例が報告されております。そして日本では廃炉も遅々として進まず、新規原発の敷地の見通しさえ立ちません。

老朽原発は恐ろしい事故の恐れ

原発推進派が狙っているのは、老朽原発の使い続けです。しかし、放射線による原子炉の劣化は深刻で、地震など何かのわずかで爆発したり暴走する危険性が増し、取り返しのつかない事故にならないか心配です。

パブリックコメントのやり方がおかしい

昨年八月からのこのような岸田内閣の動きは、国会での報告もなくマスコミもほとんど報じませんでした。そんな経過での一二月二

二日のGX実行会議の基本方針案の了承です。

政府は一二月末から一ヶ月間この「GX実現に向けた基本方針」を内閣官房ほか担当でパブリックコメントに付しました。そのやり方は、膨大な「政府案」を読み込まなければ意見書を書けない内容でした。同時にこの「GX方針案」の外に、原子力規制委員会が「高経年化した発電用原子炉・安全規制の概要」、資源エネルギー庁が「原子力政策の方向と行動指針」、原子力委員会が「原子力利用の考え方（改定）」と四省庁四題目が並んで出され、それぞれ一月二日〜二三日迄の締め切りでした。政権のアリバイ作りとしか言えません。

国会や地方議会、マスコミを通じた議論を!

一月二三日通常国会が開催されました。多くの人々で注視し、原発事故から国民を守るため、必要な行動に奮闘しましょう。(尚)

前号からの続き

福島事故原発で働く人達

ふるさとの東京電力福島第一原発は事故の復旧など全く見通しが立たない現状です。炉心内部は、人が立ち入れば数分で死に至る「シーベルト」の世界。内部を調べるための「ロボット探査機」を炉心に送ったが、みんな放射線にやられて、「コトつ」と討ち死に。回収も出来ない。ロボットがかわいそう。

働らく人達

今でも東京電力の事故原発の安全確保のために働いているのは、福島の人達です。農業や漁業が打撃を受けたので結局は原発関連の雇用です。家族を遠くへ避難させ、地元に残った男性が多い。津波で家族を失った人。離婚したり、定年退職した人が事故原発で再雇用で働く例も多くあります。

私は看護師助手として地域の病院での勤務

の経験がありますが放射線関連の病気の人が多いと感じていました。白血球が異常に減少したり。そういう人がまた、福島の事故原発の作業員に復帰したりしています。

汚染水を流すなど

とんでもない

政府は今年春ころから夏にかけて「事故原発に溜まり続ける処理汚染水を海洋に放出する予定」と語っています。「デブリ」を冷却し汚染した地下水と、もとの正常な地下水を合流させてはならず、事故後早急に分離する流路工事が必要でした。合理的な土木工事もせず、「汚染水」を毎日毎日貯めることになり、膨大なタンク群となっていました。

原発推進を

論破できる力を!

私は大熊町の町議会議員で微々たる存在

ですが、少なくとも議員として、例えば東京電力の幹部や政府・行政に質問が出来ます。事故原発からの汚染水はどれだけの量のか？ 本当にきちんと測定しているのか？ その数値はいくらか？ など

など、データを集め科学的学問的にしっかりと論拠を作り上げて批判していくことだと思います。

国民の想像力が、事故を防止する

いま東北の太平洋沖の日本海溝での巨大地震が予測されています。こんな時に、福島事故原発は大丈夫なのか、あの「汚染水タンク群」が巨大地震や津波に襲われたらどうなるのか？

使用済み核燃料も、原発建屋上層部分にあるプールで冷却しながら貯めたままになっていきます。また再び、冷却水が漏れて使用済み核燃料が露出すれば、崩壊熱で高温を発生し、火災の危険があります。これは、福島だけでなく

宮城の女川も、青森の下北の原発や六ヶ所再処理工場も、北海道の泊原発も同じです。日本全国に原発は止まっているように見えて、使用済み核燃料が安全に管理されているとは到底言えない状況にあります。政府高官や電力会社幹部は、想像力がないのでしょうか？

普通の国民ならば、ちよつと常識を働かせれば、例えば「建物高所に冷却しなければ火事が心配な危険物が溜まっている。これは大丈夫なのか？ 危険ではないか？」と不安を感じます。なのに、肝心の政府高官や東電幹部の人たちは、責任者なのに危険を理解できない頭脳になっ

てしまっている。「偉い人」になればなるほど、お金を出せば解決出来ると思っっているのだからか？ お金で、批判する人を黙らせて「解決した」と言うのはごまかしです。私達のもっともつと学習し、お金に騙されないで、しっかりと世の中を創って行きたいのです。